



横須賀水交會が目指すもの

「隊員留守家族への支援対策」

横須賀水交會会長 土井克彦



前号(第34号、25・11・13)に於いて「そして、これから!」との表題で、一応の活動基盤の成った横須賀水交會に於ける今後の活動の具体的案件として、事態急変時の「隊員留守家族への支援対策」の必要性と地域対策としての「馬門山海軍墓地保存会(仮称)の設立」を提唱しました。本号では、この内つい先ごろ常務幹事会で検討の緒に付いた前者の事態急変時の「隊員留守家族への支援対策」の外郭について触れ、

まずは会員諸兄との認識の共有化を図りたいと思います。

本件は昨年来、武居横総監から本会へ話の有ったもので、3・11事案を契機として近年陸・海・空を問わず各自衛隊の部隊レベルにおいて大きな課題として捉えられている案件であります。

それは、大規模災害時の災害派遣対処或いはこのところその蓋然性が富に高まって来ている我が国の安全保障に関わる突発的不測事態への緊急対処時に予測される隊員の緊急登庁に際して、実家などに預けることのできない隊員の子供達の面倒を誰が何処でみるかと言う問題であり、特に両親ともに自衛官である場合の子供達への対応が大きな課題としてクローズアップされているものであります。

(注1) 現在時点で、横須賀地区の海自部隊に於けるこの種支援を

発行 平成26年4月23日
編集 横須賀水交會事務局

要する隊員は、女性自衛官170名、内、夫も自衛官である隊員は110名である。

横須賀地方総監部においても海自施設内に一時託児所を開設する等の対処策を構想してはいるものの、その実証作業を実施したところ当該託児所運営に約60名程度の隊員を割かざるを得ない事態に陥り、肝心の災害派遣活動を大きく阻害することが判明したと聞き及んでおります。そこで総監部としては、これらの分野に横須賀水交會を中核とする海自OB組織の支援を仰げないかとの発想に至り、検討段階とは言え本会に対し緊急登庁支援の在り方検討を要請して来ております。

現在横監が構想している緊急登庁支援の内容と本会への要望は次の通りであります。

① 海自施設内に一時託児所を開設する。

当該託児所で、一部の隊員に代わり本会会員又はその家族(以後「会員等」と呼称する。)

横須賀水交會主要行事予定

10月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交會ホームページ

(<http://y-suikokukai.daa.jp/>)より御確認下さい。

1 練習艦隊入港歓迎行事

(1) 期日 5月8日(木)

(2) 場所 逸見岸壁

2 馬門山海軍墓地墓前祭

(1) 期日 5月10日(土)

(2) 場所 馬門山海軍墓地

3 海軍の碑記念行事

(1) 期日 5月27日(火)

(2) 場所 ヴェルニー公園

4 26年度総会・講演会・懇親会

(1) 期日 6月6日(金)

(2) 場所 よこすか平安閣

5 第28回ゴルフ大会

(1) 期日 6月9日(月)

(2) 場所 エンゼルC・C

6 靖国神社月例参拝

(1) 期日 7月17日(木)

(2) 14面に関連記事

が保育支援に当たる。

② 「このはな園」(共済組合が委託
経営する隊員児童用の保育所)を
拡張する。

これに関する支援要請は無い。
近傍に所在する海自OB宅に児童
を預かって貰う。

③ 開設される一時託児所からは
遠距離のため、小学校へ通学で
きない児童を会員等の自宅で預
かる。

これらに就いて2月の定例常務幹
事会で討議したところ、次の結果
を得ております。

常務幹事会討議結果(要点のみ)

・ 本会としては可能な範囲で積極的
にこれらの支援に当たるべき
である。

但し、以下の諸課題が有る。

① 「一時託児所開設支援策」に関
しては、運営主体が部隊となる
ので過度の負担は生じないも
のと予測されるが、支援会員等
の位置付けがボランティアと
なるのか臨時職員となるのか
が大きな分岐点となろう。仮に
ボランティアとしてもその交
通費や委託児童と共に摂る昼

食代金等の経済的負担の取扱
いを如何に処置するかが課題
となる。

② 「海自OB宅で児童を預かる支
援策」は、昼夜を分かつた対応
が可能で極めて優位な支援形
態と言えるが、支援主体が会員
となることから、預かった児童
の保育責任或いは事故等発生
時の補償等が事前の処置とし
て大きな課題として残る。更に
は預かる側と預ける側の日常
的な信頼・友好関係の構築が必
須であり、それを築き上げる施
策、例えば隊員家族と会員等と
の交流の場の設定とそれを通
じての普段からの交流促進が
重要となろう。なお、これらの
施策は、横須賀水交會の存在と
その意義を隊員家族に知らし
める恰好の機会として捉える
こともできる。

次いで、総監部側が調査したこれ
らに関わる市の福祉行政政策の一端
を簡単に紹介して置きます。

現在、横須賀市には保護者の就
労・病気等で子供の保育ができない
場合、児童を認可保育園・幼稚園・

児童養護施設等或いは家庭保育福祉
員宅で預かる「お子さん預かり制度」
があり、その内訳は、「家庭保育福祉
制度」、「一時預かり」、「シヨートス
テイ」及び「ファミリーサポートセ
ンター」で構成されております。

この内「ファミリーサポートセン
ター」制度が今次提起の支援策に極
めて類似していることから、その概
要を提示します。

・ 制度目的：預かって欲しい保護者
と預かることのできる会員の橋渡し
制度

・ 預かって欲しい会員：市内在住、
在勤、在学で生後3ヶ月〜小学3年
生迄の子供

・ 預かる会員：市内在住の希望者で、
市が準備する研修を受講された方

・ 活動内容：一時的に自宅で預かる。
・ 保育料：…
月々金 AM7時〜PM7時：700円/h
その他：900円/h

但し、総監部が市側へ緊急登庁支
援での当該制度の適用を打診したと
ころ、制度・行政上の諸制約からそ
の適用は困難との回答を得たとのこ
とであります。

以上、最初の常務幹事会での討議

7 夏期防衛講座

(1) 期日 7月26日(土)

(2) 場所 神奈川県立保健福祉
大学講堂(予定)

8 部隊研修

(1) 期日 9月〜10月頃

(2) 研修先 計画中

結果は、厳しい内外情勢に鑑み本会
としては“当該支援を是非とも実施
すべし!”との意思確認はできたも
の、立ちはだかるハードルの高さ
も再認識されるものとなりました。

そこで総監部と本会側双方で当該
支援策検討のためのプロジェクトチ
ーム(PT)を立ち上げ、支援策の具体
化を進める必要があるとの合意が得
られ、現在その旨を総監部へ申し入
れ暫時調整を進めている状況にあり
ます。

今後のPT作業の推移にも依ります
が、必要であれば横須賀市の行政に
も現行制度の準用等を働き掛け、恒
久性と安定性の有る制度設計を目指
したいと考えております。

本来、この種対策は国レベルで処
置すべき課題であることは言うを待
ちません。しかし、それを待ってい

たのでは埒が開きませんので、先ずは横須賀から火の手を上げ、実績を積んだ上で本部へ上申し全国規模の動きにすることが肝要と史料しております。

今後、総監部と密なる連携を執りつつ常務幹事会或いは幹事会を通じて討議を重ね、6月初旬に開催を予定しております。「平成26年度横須賀水交會總會」の場でその段階での検討成果(叩き台)を披歴し、会員諸兄のご意見とご判断を仰ぎたいと考えております。

なお、本支援策事業推進においては、今一つの海自OB組織である「横須賀曹友會」にも参画を働き掛け、制度運営の柔軟性確保とより強固な海自現役とOB間の一体感の醸成に努めて参る所存でおります。

〔横須賀水交會が目指す物!〕

水交會の會勢が全般的に奮わない中であつて、本會はここ数年来着実にその会員数を増加させて来ております。その背景として、次の要因を挙げる事ができます。

一つは、これ迄タブー視されて来た政治活動分野で、国政・地方自治

体選挙を問わず、我が国海上防衛の重要性を認識し、わけても海上自衛隊の發展拡充に貢献できる候補者に対する選挙活動支援に、本會の有志会員が防衛連絡協議会を介して積極的に取り組み、相応の成果を上げ、その結果として地域に於ける“横須賀水交會の存在感”を大いに高め得たこと。今一つは、従来の内向き指向を改め、海自関係者以外の方々に對しても広く門戸を開き“隠れ海上自衛隊ファン”の發掘に努めた結果、一般有志会員の入會が急速に伸びて来たことが挙げられます。

(注3) 昨年度新入会員数 92名

(内有志会員 53名)

本年度新入会員数 84名

(内有志会員 45名)

26・2・28 現在会員数 825名

これらの実績から、本會が採択した會勢拡大策は相応の効果を上げて来ており、今後ともこれらを強力に推進して行く所存でおります。

しかしながら、これらの會勢拡大策には自ずと一定の限界が有るとともに、十分な予防策を講じている積りではあつても、ともすれば水交會の本質を見失いがちな危険性を孕ん

でいるとの認識も否めません。そこで、今一度「水交會の原点」に立ち返つて、今後の「横須賀水交會の活動の在り様」に就いての一案を提示し、皆様のご批判を仰ぎたいと思ひます。

本會の定款では水交會の定款を踏襲し、次の通りの“組織の目的”を定義しております。

(目的)

第4条 本會は、旧海軍の勤務に關連して戦傷病者戦没者遺族等となつた者の援護及び戦没者等の慰靈顕彰並びに海上自衛隊殉職隊員の慰靈等に海上自衛隊に對する必要な協力を行うとともに、旧海軍のよき伝統精神を継承しつつ、会員相互の啓發、扶助及び親睦を図り、もつて国の福祉と平和に寄与することを目的とする。

この定款(目的)で示された内容からしますと、前述の本會が進めて来た會勢拡大策は、広義の解釈での評価は置くとして、狭義の解釈からしますと少々その適合性に悖る感は否めず、その辺りが水交會の本質を見失し兼ね無いと杞憂を生む要因となつていのではないかと考えております。これらの認識を踏まえた

上で、これ迄の本會の活動状況を振り返つてみますと、“慰靈(顕彰)”概念に基づく海上自衛隊への精神的支援活動と啓蒙活動及び“会員相互の啓發・扶助・親睦”のための内向きな活動がその中核を成して来たように思われます。

これらを現役隊員の立場から見ますと、前者はやや自己陶醉・自己満足型の支援形態に写り、後者は海自OBの中でも、特に幹部OBの親睦団体的組織として捉えられ、この辺りに本會の存在がなかなか現役隊員の内に浸透して行かない要因となつていゝるのではと考えられます。要は、現役隊員わけても海曹士隊員にとつてインパクトの有る“海上自衛隊に對する必要な協力”の姿が見えづらい活動状況にあつたと言つても過言では無いでしょう。

そこで、今後の本會の活動の方向性を、これ迄の活動形態を継承しつつも、そこで培われた精神を基盤として、より実効性の有る換言すれば“目に見える形での海上自衛隊支援策の追及”を打ち出したいと考えます。

そのためには、海自OBとして、よ

り現役隊員の立場に寄り添い、彼らと一体となった海自に対する直接・間接の支援の在り様を模索することが肝要でしょう。このことは、現役隊員と本会会員との垣根を狭め、結果的に本会の永年の懸案でもある海曹出身者の入会促進にも繋がりが、その会員比率を高めることで前述の政治活動や一般有志会員入会促進活動の杞憂も払拭されるものと考えます。言うまでも無く、昨今の厳しい国際環境下で、海上自衛隊は否応無く実働部隊としての対応を迫られ、隊員は昼夜を分かたず高い緊張感の中の勤務態様を強いられています。そこでは、隊員にとって海の防人としての強固な精神(誇り)の獲得と後顧の憂い無く働ける環境の確保が不可欠となります。今次提案の「緊急登庁支援策」に対する本会の取組みは正にその一環を成すもので有り、昨夏から開始している教育隊練習員等への「横須賀水交會激励賞の授与」も又かかるといふ意味合いから発したものであります。

躍頂いております。彼らの貴重な経験に裏打ちされた識見と感性を大いに本会の運営に活かすと共に、前号で触れました水交會(本部)藤田理事長の「但し、やり過ぎないことが大切です。節度を持ってこのような努力を重ねれば、現役とOBの間の心の交流も出てくると思います。」との諫めの言を心に刻み、目に見える形で海自支援策の具現化に努めて参りたいと思っております。

事の正否は別として、昨今の我が国に対する厳しい外圧は、国民世論の国家意識と民族意識の覚醒を誘発している様に見受けられます。しかしながら、国防のプロを持って認ずる本会としては、徒にこれらの言動に付和雷同すること無く、地に足の着いた実効性の有る海上自衛隊への支援活動を推進して参りたいと考えておりますので、今後とも会員皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻をお願いして本稿を終わります。

なお、6月初旬に計画します横須賀水交會総会に於いては、この辺りを中心議題として取り組む所存でおりますので、会員多数のご参加を期待しております。

「司令官挨拶」

潜水艦隊司令官

海将 鍛冶 雅和



横須賀水交會の皆様、遅ればせながらご挨拶申し上げます。

私は、昨年8月第20代潜水艦隊司令官を拝命させて頂きました鍛冶でございます。会員の皆様には、平素から格別のご支援、ご高配を賜りまして厚く御礼申し上げます。私の出身地である横須賀での勤務は、平成19年7月以来ということで本場に久し振りでありますが、毎朝、かつて私の子供達が通った小学校・中学校の生徒さん達が通学する光景を見ながら出勤しています。

さて、現下の安全保障環境、防衛力整備、更には海上自衛隊全体に関するお話については、総監や自衛艦隊司令官にお任せして、私の持分の潜水艦部隊について申し上げます。

先ずは日々の厳しい部隊運用について取り上げるのが当然ですが、これについては会員の皆様ならご理解頂けますように仔細を申し上げます。残念ながらそれ以外について述べます。

最初に、昨年、横須賀の第2潜水艦群にも配備されました新型潜水艦「そうりゆう」型の更なる戦力化があります。液体酸素によりスノーケルを実施せずにスターリング・エンジンを運転する非大気依存型推進装置(AIP)、舵効きの向上を狙い艦尾の舵(横舵、縦舵)が45度傾いたX舵、非光学潜望鏡(電子カメラ)である非貫通潜望鏡等といった新機軸の装備を十分に使い込み、真の装備とする過程にあります。また、新「防衛計画の大綱」にも示されました将来の潜水艦隻数の増大への対応にも頭を悩ましており、特に、潜水艦乗組員の数を確保する必要から、海上自衛隊全体にお世話になりつつこれも鋭意、推し進めている最中です。

一方、「潜水艦の話ばかりならドンガメ会でやれ！」と仰られるのではと思い、それ以外のお話を申し上げます。

ますと、私の手元に「艦船と安全」の発行番号1桁（昭和44年頃）の冊子があります。ご案内のとおり「艦船と安全」は、主として部隊の安全に関する啓発等のため、昭和44年4月に第1海上訓練指導隊によって編集され海上訓練指導隊群から第1号が発行されました。当時の誌面を拝見しますと、投稿されている指揮官の多くが帝国海軍の先輩であり、太平洋戦争時の実体験を基にした生々しい寄稿があります。また、現在も続く「ゾナー感度あり」の項では、既に退官された先輩が初任幹部時の投稿であったり等、興味深くも微笑ましい記事が並んでいます。現在、同冊子は、電子化され海上自衛隊隊内で所要のネットに接続すれば閲覧できるようになっております。また、近年発行の誌面上には、過去の同じテーマのものを集めた再掲載や旧海軍関連資料の現代語訳も掲載しております。

は旧海軍の図書を多数蔵書しており（「海軍図書室」と呼称）、その資料の中で興味深いものを現代語訳し、同じく隊内ネットにアップロードしておりますので、併せて紹介させていただきます。

「故きを温ねて新しきを知る」横須賀水交会海自OBの皆さんが現役として活躍していた時の写真や文章が、また、既に鬼籍に在る帝国海軍の諸先輩の失敗談等が、今も現役の活動の原資として活用させて頂けることは有りがたいことです。これは、海という自然を相手とし、船という道具を使わなければならない必然がある故、善き「継承」を尊ぶ「海軍」文化ならではの思いです。

一方、新たな装備の登場もあり、1日24時間という時間的制約の中では古いものを見直し、代わりに新しいものにその資源を充たせざるを得ない部分もあります。

先輩の方々には、「継承」と「変革」について、引き続き暖かい目でご指導を賜りますようお願い致しますとともに、併せて横須賀水交会の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

【投稿】

小野寺防衛大臣のご講話、
日本人の歩み

会員 佐野 恭子



私は技術、体力、精神的に完成した海上自衛隊員が55歳で退官するのを非常に惜しいと思ってきた。少年期に進路を決めて以来、一生を防衛に捧げてきた人達が人生の絶頂期に、それまでの自我・価値観を斧で断ち切られるように失う痛みを知っている。自衛隊に勤務するのは会社勤めとは違う。被爆を覚悟で福島県に真水のバージュを輸送するのだ。定年後も望めば海自に関わられたら。昨秋、日米協会新会長に着任した藤崎一郎前駐米大使は米国で得た人脈、視野、エネルギーを持って新しい企画を次々打ち出した。例えば1月に防衛大臣と談話の会を持たれた。玄関前で大臣をお待ちしている会長に相談した。「定年退官した自衛隊員で

掃海なら、津波のあと陸自と協力して重機を使う海底の巨大な清掃が出来た。ボランティアと違い・・・。「30秒で話せ。」談話後、質問になった「退官後も再雇用の形でそれまでの技術を生かして欲しい。リザーブド・フォースの制度を採って早くから複数の選択肢を与えて欲しい。」これに大臣は「技術を持つ人は再雇用していく。予備役は受け入れてくれる会社が少ない。」と言われた。大臣は極めて脇が硬い。強い使命感、激しい危機感を持つ無私の人と思われた。

「陸・海・空を個別に考えない。軍事力は3軍統合して運用する。陸自のヘリを、海自の輸送艦に載せて直後出動できなくては、意味がない。」

「日米の緊密な関係こそ最も重要と考えている。外務省に、来日する総ての米上院・下院議員と会えるよう頼み去年36人の議員と会う事が出来た。会って直にその気持ちを伝えた。」

「サイバー防衛は極めて重要」「多目的艦艇を持つ」「仲井真知事の公水面理め立て許可を戴いた」遠くグアム基地も視察され「いい状態。」尊敬される防衛大臣と思う。この冬、海軍兵学校在籍・卒業の方々とは会う

好機があり、敗戦後の日本に触れる思いがした。昨年12月の旧海軍兵学校の同窓会は67期―78期85歳迄の方が来られた。斎藤隆元統合幕僚長が「水交會の現在と将来」を講演され最後に♪守るも攻むるも・・・それに江田島健児の歌を足踏みしながら歌った。「声が、小さい！」と嬉しそうな声が飛ぶ。1月、海兵76期東大卒の銀鷹会幹事新年会に宮崎富哉元零戦パイロット(70期)と招かれる。全く別の日本人が居た。我ら人類有史以来のノーテンキ集団団塊世代とは別の日本人。一面の焼け野原を背負い、生きる戦いを耐えた人々。石戸純一さんが「昭和25年までは食べるものがなかった。」ぼつんと言われた。その言葉に恨みも悲しみも・・・何かを要求するでもなく・・・憎しみも無かった・・・戦死したものの、満州から戻ってこない人も大勢居た。「おれ達は、生き残った」という・・・石戸さんから手紙を貰ったことがある。銀鷹会で会費の領収書を頼んだ時、仲間内ゆえ領収書など、無かった。彼は私のために文具店で買い、手紙を添えて送ってくれた。私は物凄く恐縮し、焦ってお礼の手紙を差

し上げ、それにも礼状を戴いた・・・端正な文字・・・男らしいおらかな字配り・・・かつての日本人が「文字・手紙」に託して来た己のありようを見る思いがした。山崎昂一さんは17歳で旧制新発田中学から海兵に入學した。土曜の午後3食の弁当を貰った分隊が帆走して宮島まで行き、テントで1泊して5時迄に江田島に帰る。海風の中で巡航節を歌う♪赤いレンガにやよーとおお、オーニーが、棲むうよー・・・大粒の涙を一瞬手の甲でぬぐい「酒飲んで歌ったら涙が出た」笑顔を作られた。昨夏宮崎富哉兄と靖国神社に参拝した。実戦経験のある彼一人が参集殿で沈黙にあつた。暑い日だった・・・どうしても国立博物館に行く、と言いつつ「恭子ちゃん、僕は焼け野原の上野で寺に下宿した。庫裏で寝た。葬式と言うと追い出された・・・しょっちゅう葬式が有ってね・・・ここに来て勉強した。一面の焼け野原だったよ・・・」彼は東大卒業後司法試験を受け30年を判事として生き60歳で初めて自分のための人生を弁護士として出発した。銀鷹会でも海兵同窓会でも「自分は、生き残った。」と言

うひたむきな姿勢の中に、死んでいった者を思う遠慮を感じる。餓えとの戦いを誰より知っている者が・・・今、日本は停滞し、労働力不足だと言われる。私が世界に4つ残る国を挙げるなら、ぶつちぎりの米国、世界一の人間通英国、烈しいスイス、そして日本。ポツダムで既に死に体の英国が主導した大戦収束時、舞台となった建物を見た。国連安保理並みの膨大な同時通訳群のブース、巨大な丸テーブル、ソ連、米国と英国3国の代表団用居住スペースが隣同士に並び「こうやって英国は大戦を手を納めたか」400年前から市民の居た英国、アジア・アフリカで好き勝手した英国。スイスは民主主義・家長制度・非EU・プロテスタント・金融国家と相反する要因を内包して実に己に敵しい。我ら日本の強さは戦後を、混沌とさえ見える寸前の、極めてスケールの大きい、強力な柔軟性を持って乗り越えて来た。エンジニアで見るなら無名の技術者の丁寧な工業技術をチーム、会社、家庭、世界有数の日本の教育が支えた。原爆投下を山一つで逃れたマツダが不可能と言われたロータリーエ

ンジンを早くから追い、金沢の澁谷工業は戦前の造り酒屋用ボイラーから、飲料充填工業を経て常温・無菌の液体充填、そしてiPS、再生医療へと飛躍した。「世界のトップを走る技術のシブヤ」。今日、カネカはアフリカの女性達に細い付け毛の原料を輸出している。時給10円20円の中国資本で働くアフリカ女性にカネカは付け毛の材料を売る。ボーイングが東レと炭素繊維で独占契約を結び、サカタのタネは、世界中の温暖化対策として買われる。岡山理科大は「好適環境水」を用いて砂漠でさえ魚の養殖を可能とする。NTTデータがバチカン図書館所蔵3千冊を23億円でデジタル化し、それは角砂糖1個の大きさと聞く。ナガオカは社長・副社長が就活の面接で言う「この小さな会社で人生を思いっきり生きてみないか、政府資金を宛てに待つ時間が惜しい、アフリカで飲料水を、アラブで海水から真水を作る、この会社に就職しないか」外国人労働者を受け入れればこの日本文化は変化してしまうだろう。敗戦後日本人は、思想や宗教哲学、憲法や政治を標榜するのではなく・・・

言葉が、見つからない・・・武士道や教育勅語や家族愛や情け様々を団子に丸めて、ひたむきに裸足で、国際社会において名誉ある地位に近い所まで、歩いて来たように思う。

【投稿】

靖國神社と東京裁判

横須賀水交會副会長

信兼旭男

〽 本件は(公・財)水交會が実施する靖國神社月例参拝に合わせ、2月20日(木)横須賀水交會が実施した神社参拝に際し、当日の参加者に配布したものに手を加えたものである。この種類の寄稿文は、いくつかの事項で思想をある程度共有していないと誤解を招く恐れが多分にある。会員諸兄のご叱責も覚悟のうえ横須賀水交會新聞に寄稿するものである。〽
戦没者慰霊の在り方は宗教性の有無も含めて千差万別、その国固有の形でよい。靖國神社は日本の歴史を有形、即ち形のあるものにした一種の日本の姿の象徴でもある。
ペリー来航の癸丑(嘉永6年)以

来、西洋の圧力に対抗してその戦いに身を捧げた英霊を祀っているのが靖國神社。西欧列強に国民一丸となつて戦つたのは日本だけである。

安倍首相の参拝に際して米国が「失望」の意を公表したが、最も大事な友好国の一つ米国の発言であり今後の日本国の在り方に大きく影響することを危惧し、以下に個人的所見を述べる。

1 靖國神社に関わる米、中の思惑

中国・中国共産党は無神論

信教の自由を認めず、毛沢東の時代、自分の祖先を自宅で祀ることも許さなかった。中国には国の為に亡くなつた英霊の御霊を祀る施設はない。本来なら中国共産党は靖國神社に関心がないはず。自国に慰霊施設を建立できない国が他国の慰霊施設に口出しをすべきではない。

現在の陸自兵力は15個師(旅)団に1個中央即応集団。靖國の英霊に

対し国を挙げての尊崇の念を抱くようになれば日本にたちまち30〽50個師団相当の潜在兵力の生まれる可能性を中国は恐れている。

米国

米国もこういう意味を含めながら注視している。

戦争直後GHQマッカーサーは靖國神社を潰してドッグレース場しようとした。日本民族を愚弄し、日本文化を否定しようとしたこの恥ずべき行為の修正は現職米大統領の靖國参拝以外にないと思つている。この度の安倍首相の参拝に対して米國務省及び大使館は「失望した」と発表した。良識ある日本国民は「アメリカに対し失望」している。これが自由を標榜し世界に民主主義を訴える米国の現実である。戦後民主主義とは異なる、日本文化が長年かけて醸成してきた日本独自の民主主義については機会があれば別に寄稿したい。

韓国…語るにオツル。

2 A級戦犯合祀の問題

一部の政治家でA級戦犯を分祀するという差別扱いを靖國神社に要求する議員がいる。分祀を主張するのであるならば昭和28年、国会で議決した「戦犯赦免」を廃棄すると同時に「戦犯は国内法上も犯罪人である」との発議をする覚悟を以て分祀の主張をせよ。

刑に服した人々に対し、永久に名誉を剥奪「国家としての追悼から除

外する」法案を提出せよ。その覚悟在りや。

3 靖國神社国家護持法案

衆院法制局が自民党に提示した靖國神社法案は政教分離の合憲性を求めるため祝詞、降神の儀、修祓、二礼二拍手一拝、神職の名称の廃止等の異常な変革を要求した。

戦犯赦免の国会決議後、靖國神社国家護持法案成立を待つて戦争責任者の合祀をすることで固まっていたが、その国家護持法案の内容が受容できない方向であることが明らかとなり、靖國神社国家護持運動を中止した。当時の松平宮司の譲れない3本柱とは

- ・ 神道の祭式で御霊をお慰めすること
- ・ 鳥居や神殿など一連の神社の佇まいを変えないこと
- ・ 明治天皇御命名の別格官幣社

靖國神社と云う社名を変更しないこと

日本祭祀の伝統を認めるため、緩やかな政教分離に改憲の後、靖國神社法案を検討すべきとして昭和49年護持法案を政府・自民党は廃案とした。戦犯が合祀されたのは昭和53年。

4 靖國神社宮司 松平永芳氏

- ・ 幕末4賢侯の一人越前領主松平春嶽の孫
- ・ 海軍機関学校45期 海軍少佐で終戦
- ・ 戦後、近衛師団の解体を憂い陸上自衛隊に入隊（終生第1師団勤務を希望）
- ・ 昭和53年〜平成4年 第6代靖國神社宮司

中曽根元首相の靖國公式参拝に際し、

- ・ 「手水」を使わなかったこと
 - ・ 「二礼二拍手一拝」の神道形式を採らなかつたこと
 - ・ 「お祓い」を拒否したこと
- 更に昇殿の際にボディイガードを伴ったことに激しい憤りを感じたという気骨の宮司

5 東京裁判中(後)にアジアで生起していた事象

西欧列強のアジア植民地侵略の盾となっていた日本軍の敗退で、列強はアジア諸国への蚕食を再開した。東京裁判は日本による戦争犯罪を世界、特にアジア諸国に喧伝し、欧米列強のアジア再侵略を正当化させようとすると茶番劇であった。

大東亜共栄圏の構想に基づき

- ・ 1943年
- ・ バーモ ビルマ独立宣言
- ・ ホセ・ラウレル フィリピン共和国独立宣言
- ・ チヤンドラ・ボース 自由インド仮政府樹立
- ・ 1945年
- ・ スカルノ インドネシア独立宣言

東京裁判を実施しながら、「侵略国日本と連携して独立宣言したアジアの指導者は日本と同じ軍国主義者であり、その独立を認めない」フィリピンのラウレル政権を潰し、スカルノの指導の下のインドネシアに一方的に攻撃を仕掛けた。

インドシナ半島のヴェトナム、カンボジア、ラオス

再びフランス軍によって侵略を受け、ヴェトナムに至つてはその後15年近くも独立戦争を強いられた。日本にも留学したヴェトナム愛国の土ファン・ボイ・チャウ潜伏先をフランスに密告したのがホーチミン。インドネシア

当初イギリス軍、次いでオランダ軍による一方的な攻撃を受け、3年

半の独立戦争で80万人の犠牲者を出した。

朝鮮半島

米ソ両国によって南北に分断、その後の朝鮮動乱で今なお分裂国家。

台湾

中国本土を追われた中国国民党は台湾を占領して数万人を虐殺した。「以德報怨」の蒋介石の言葉に日本人は騙されている部分がある。

中国

国共内戦の後、中国共産党が一党独裁政権を樹立。チベット、ウイグルを始め抑圧に苦しんでいる。

6 インド独立とパル判事

イギリスは東京裁判に倣つて自由インド国民軍2万の将兵を「宗主国イギリス女王陛下に対する反逆罪」として裁こうとした。この植民地政府による裁判に反発したインド国民は、「侵略国・日本に協力した反逆行為ではなく、インド独立の英雄的行為」と主張して各地で抗議運動を展開、この抗議のうねりがインド国民軍に対する裁判を断念させ、インドは独立を勝ち取ることとなる。

これが東京裁判におけるインドパル判事の日本無罪論、日本擁護論展

開の背景でもある。靖國神社にはパル判事の顕彰碑がある。

7 東京裁判の総括

・ 仏のドゴールが米のトルーマンに「仏領インドシナが返つてこない」と泣きついた結果がヴェトナム戦争、ポルポトの悲劇まで尾を引いた。

・ 「赤道にかかる女王陛下のエメラルドの首飾り」の島々を手放したオランダはこの当時の国家予算の1/3を蘭領インドシナから搾取していた。「恨みに思つてはいないが忘れない」と未だに天皇家を侮辱する性悪の国オランダ。

・ 東京裁判とは欧米が手を結んで日本に復仇しアジアを再植民地とするための茶番劇

東京裁判は西欧列強にとって触れて欲しくないものが根底に詰まつている。慰安婦問題も含めて触れられたくないので歴史修正主義者、レビジオニストと称して日本の指導者を非難する。

8 東京裁判のその後

チャーチルは第2次世界大戦終了後の東欧で生起する数々の事件に鉄

のカーテン演説、共産圏の脅威を認識するようになる。

日本の周辺では

- ・ 中国国民党の敗退と中国共産党によるチベット、ウイグル併合
- ・ 朝鮮戦争の勃発
- ・ 米国政権内及びGHQ内に蔓延るコミンテルンの手
- ・ 予想以上に浸透する日本の赤化運動
- ・ インドシナ戦争、インドネシア独立戦争(早く云えば米VS中ソの代理戦争)
- 米国は日本を防共の砦とするべく政策の大転換を図る
- ・ 強き日本の復活、日本に対するアメリカ市場の開放、IMF、世界銀行、GATTへの加入
- ・ 台湾、東南アジア諸国の対日融和促進
- ・ 反日感情が特に強い英、蘭に対する日本取り込みの重要性の説得、講和条約締結の推進
- ・ 自衛隊創設支援と養成、(アメリカの都合で潰した日本

軍をアメリカの都合で再建)

9 東京裁判のもう一つの罪

日本国民に贖罪意識を植え付けるため中国、韓国を巻き込んで協力させれば更に効果が上がると列強は考えた。これはインド、マレーシア、ビルマ、仏領インドシナ、インドネシアの植民地政策で西欧列強が実施した「分割統治」の延長である。国際法無視の東京大空襲、広島、長崎の原爆投下を糊塗、この犠牲者の数に上回る南京での30万人の大虐殺をでっち上げさせ、ありもしなかった従軍慰安婦のストーリーを黙認し、米国内に慰安婦の像の建造を認可しているのもこの一連の動き。21世紀の今日の東アジアの安定を損なう、否、不安定を助長させたのが東京裁判の今一つの罪。

10 日本の安全保障

泣き言をあれこれ並べるのは日本男子の本懐ではない。話題を変えて我が国の安全保障。
軍事力は単なるカネの話ではない。装備のみの話でもない。若者の命を犠牲にして成り立つ世界である。種々とあるもののアメリカ軍事力の

有形、無形の恩恵を最も受けてきたのは日本かもしれない。これは、東西冷戦に起因するものがあつたであろう。地勢学上のものもあるであろう。日清、日露から第1次大戦、大東亜戦争で示した日本の軍事能力評価もあつたかもしれない。日本の総合的国力も考慮したであろう。

紙面の都合で割愛するが、この米国の軍事力の恩恵は自衛官を始めとする我が国の安全保障に関わる人々の懸命な努力の積み重ねによる日米相互の信頼があつたからでもある。

米国の陰謀にはまって大東亜戦争の開戦を強いられた。そうして無残な敗戦。現行憲法を含む過酷な占領政策が今日の体たらくを呼び込み、中韓の宣伝戦に押されっぱなし。等々主張する者もいるが、これらは米国の所為のみではない。大半は日本人自身が無責任であつたからである。

11 憲法改正のうねり

サンフランシスコ講和条約を機に一挙に憲法改正すべきであつたとの声もあるが
・ 朝鮮特需の終焉での景気の後退と米国経済に頼らざるを得

なかつた当時の国内状態
・ 東西冷戦の構造下、西側陣営に立たざるを得なかつた世界情勢
・ 何よりも、過度の占領政策等追求による反米/親ソの革新勢力の台頭を警戒 等々。
グッドタイミングを失したのは痛恨の極み！ されど今からでもできることである。

「横須賀市政報告」

市議会議員・幹事 木下 憲司



横須賀市議会は、2月17日から3月26日の間、第1回定例会(予算審議が主)を開催しました。いくつかトピックスを報告します。
1 自衛官OBの採用
本会議の代表質問に対して、吉田市長から「危機管理要員として、平

成27年度から横須賀市役所・係長級職員として自衛官OBを採用する予定」との答弁がありました。4年前から、危機管理監という名称で、市役所・災害対応の職に自衛官OBの採用を求めてきました。今回の、市長の方針表明に至るまでに、3年前に東日本大震災も発生し、横須賀市の危機管理体制の充実を図るべしと、我々は主張してきました。このたび、自衛官OBが採用されることにより、地震や危機の際に、その知識や経験が生かされ、横須賀市の危機管理体制がより充実されることを期待しています。

2 千代が崎砲台跡の国史跡指定

千代が崎は、浦賀港入口・灯明堂のある岬部分で、明治陸軍は大規模な砲台を建設しました。明治から大正にかけて、東京湾口を守る砲台として30センチ級の大砲が数門置かれる大規模な砲台でした。戦後、この地は海自横須賀通信隊として利用されてきましたが(現在運用停止)、煉瓦造りの砲台施設は保存状況も良く、現在に至っています。国は東京湾要塞遺構群の一つとして、千代が崎砲台跡を史跡指定するわけですが、指

定後は横須賀市の管理となります。歴史遺産として活用を図りたいものです。

3 横須賀製鉄所(軍港) 開設150周年

来年平成27年は、横須賀製鉄所(軍港)開設150周年として、記念すべき年となります。慶応元年(1865年)横須賀製鉄所の開設に始まる、150年間にわたる横須賀軍港の歴史は、わが国の近代化とともに歩んだ本市の歴史そのものです。市議会として、製鉄所開設150周年は、その歴史を再確認して横須賀のアイデンティティを確立するとともに、市民意識を啓発して郷土の成り立ちを後世へ伝承する重要な年であると認識しています。行政に対して、意義ある150周年事業の実施を強く求めています。

【参加行事等紹介】

1 第27回横須賀水交會主催

ゴルフコンペ

平成25年11月8日(金)、第27回横須賀水交會主催ゴルフコンペを房総半島の鹿野山カントリー倶楽部に開催しました。



当日は、快晴、絶好のゴルフ日和の天候に恵まれ、半袖にてプレイする人も見受けられました。参加者は信兼副会長以下42名と前回よりも少ない人数でしたが、陸自出身者1名、JANAFから1名、民間から1名の女性参加者に加え、にぎやかにプレイを楽しむことができました。

競技は従来どおり新ペリア方式で実施しています。ただし、同じ人が入賞しないように過去3回のコンペで1、2、3位に入賞した方は、新ペリア方式のハンディキャップからそれぞれ30、20、10%を減点することとしています。この減点は3回コンペに参加しないと消えません。

今回は、持永昇三氏が、グロス85、ハンディキャップ14.4、ネット70.6で優勝、2位には坂東勝昭氏(88、15.6、72.4)、3位に中尾誠三氏(80、7.2、72.8)という成績でした。優勝の持永氏は初優勝であり、見事に副賞のキャデillacを獲得し大喜びでした。



また、坂東氏も本来の実力を遺憾なく発揮され準優勝、副賞のパターを獲得されました。ベストグロス賞

は、ジュニア（65歳未満）の部で斉藤進氏がグロス85、シニア（65歳以上）の部で過去4回優勝の近藤義美氏がグロス72でそれぞれ受賞、加えて近藤氏は前回に引き続きエイジシユートの偉業を達成されました。

優勝した持永氏からのメッセーヂです。「過去5年間、横須賀水交會ゴルフコンペ担当幹事として参加してきましたが、一緒に廻っていたいただいた仲間と新ペリア方式に恵まれ、念願の優勝をさせていただきました。次回からも、もっとレベルアップして再度の優勝にトライしたいと思えます」。

水交會主催コンペは会員の親睦を目的としたゴルフ大会ですが、水交會会員のみならず、陸海空自衛隊のOBや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交會の活動に理解を深めていただければ幸いです。と思っています。またこのから水交會に入会していただければこのコンペの目的を十分に果たすことができるものと考えています。たくさんの方に声をかけて参加者を増やしていただくよう今後ともご協力よろしくお願ひします。（迫幸一郎幹事 記）

2 護衛艦「ゆうぎり」横須賀

転籍出迎え

平成25年11月29日（金）、護衛艦「ゆうぎり」（艦長 牧孝行2佐）が、横須賀に転籍後、初入港しました。



同艦は、「あさぎり」型護衛艦3番艦として平成元年2月に就役し、当初は第1護衛隊群第46護衛隊所属で、横須賀が最初の母港でした。その後、平成13年3月に転籍し、第7護衛隊所属で大湊を定係港としていました。平成25年3月9日付で第11護衛隊に編入され、再び横須賀に帰ってくることとなったものです。

再度の転籍に際して、函館どつくにて定期検査及び延命工事が施された後、横須賀に回航、今回の入港となったものであります。横須賀音楽隊の演奏の中「ゆうぎり」は、スマートに逸見岸壁に接岸しました。

武居横須賀地方総監執行による入港歓迎行事は、松下自衛艦隊司令官ほか横須賀在籍の各級部隊指揮官及び隊員等多数が参列して盛大に行われました。

横須賀水交會も、自衛艦旗小旗を振り、水交會旗を掲げ歓迎するとともに、乗組員の激励を行いました。同艦の今後の、御活躍を祈ります。

（本多一雄事務局長 記）

3 掃海艇「はつしま」命名・

進水式に参加

平成25年12月6日（金）、JMU（ジャパンマリンユナイテッド（株））横浜事業所鶴見工場において、平成23年度計画中型掃海艇の命名・進水式が執り行われました。

この掃海艇は、基準排水量570トン、長さ60m、幅10.1m、深さ4.5mであり、船体にGFRP（Glass Fiber Reinforced Plastics）

ガラス繊維強化プラスチック）を使用した海上自衛隊で3隻目となる掃海艇です。



式典は、武居智久横須賀地方総監の執行により、厳粛かつ整齊と進められました。横須賀音楽隊の演奏に合わせて国歌斉唱の後、防衛省代表として武居横総監が『本艦を「はつしま」と命名する。』と防衛大臣の自衛艦命名書を読み上げました。引続き武居横総監によって支綱が切断されると、シャンパンが船体で砕け、くすだまが割れ、横須賀音楽隊による軍艦マーチの演奏が響く中、「はつしま」はゆつくりと船台を滑り降り、その雄姿を海面上に横たえました。はつしまは、これから、平成27年春の就役に向け、鈴木厚志ぎ装員長をはじめとするぎ装員と防衛省及び建造所関係者により、ぎ装が進めら

れることとなります。



横須賀水交會からも本多副会長はじめ会員多数が参列し、「はつしま」の進水を祝し、ぎ装の無事な完成を祈るとともに、力強く輝かしい勇姿に自衛艦旗がへんぼんと翻る「はつしま」就役の姿を思い描きつつ、多くの参列者とともに式場を後にしました。(松本幸一郎幹事 記)

4 平成26年横須賀防衛団体

賀詞交歓会

1月18日(土)午後、横須賀地区の防衛関係者にとりましては新年の幕開け行事ともなっております「平成26年横須賀防衛団体賀詞交歓会」

を横須賀商工会議所多目的ホールにおいて盛大に執り行いました。



賀詞交歓会は、防衛協力に係る9団体(横須賀防衛協会、隊友会横須賀支部【主幹事】、横須賀水交會【副幹事】、横須賀曹友会、三笠保存会、自衛隊父兄会三浦半島地区会、三浦半島募集相談員会、横須賀海交會及び桜遊会)が共催して近傍の自衛隊部隊指揮官、米海軍部隊指揮官、横須賀市長等を招いて新春の賀詞を交歓するとともに、自衛隊を激励し、併せて、各団体、会員相互の親睦を

図ることを目的に毎年実施しているものです。



当日は天気にも恵まれ、ご来賓、会員等約240名の皆様が参加しました。

なお、本賀詞交歓会の実施時期が海上自衛隊輸送艦と釣り船との事故が起きた直後であったため、残念ながら海上自衛隊・米海軍部隊指揮官等の皆様には参加頂けませんでした。



さて、賀詞交歓会は、国歌斉唱、

共催団体代表者の紹介、共催団体を代表して小山満之助横須賀防衛協会会長の挨拶、来賓を代表して吉田雄人横須賀市長と國分良成防衛大学校

長の祝辞、来賓紹介、祝電披露、鏡開きの順で行いました。



来賓紹介では内閣府大臣政務官兼復興大臣政務官 小泉進次郎衆議院議員、宇都隆史参議院議員から力強いご挨拶を頂きました。なお、浅尾慶一郎衆議院議員、佐藤正久参議院議員は公務のため急遽欠席となりましたが、多数の神奈川県議員・横須賀市議会議員・葉山町議会議員の皆様が参加されました。



引き続き、鏡開きでは各界を代表する10名の皆様(宇都参議院議員、吉田横須賀市長、板橋衛横須賀市議会議員、平松廣司横須賀商工会議所



会頭、國分防衛大学校長、岡部俊哉
防衛大学校幹事、成田千春陸上自衛
隊通信学校校長、菊池哲也陸上自衛隊
高等工科大学校長、長谷川豪航空自衛
隊第2高射隊長、齋藤隆水交會本部
専務理事）が新潟県新発田市の菊水
酒造会長 高澤英介氏（横須賀水交會
会員）から毎年寄贈を頂いている「菊
水」と、海軍に因んだ「元帥」の四
斗樽を参加者全員の「ヨイショ」の
掛け声に合せ、見事に叩き割り、最
高の盛り上がりの時を迎えました。

その後、岡部防衛大学校幹事の発
声により乾杯が行われ、以後、懇談
の時間となりました。会場内のあち
らこちらで陸上・航空自衛官、ご来
賓、自衛隊OB、各団体会員等が和
気藹々と懇談する姿が見受けられ、
当初の目的である親睦を十分に図る
ことができました。

楽しい時はあっという間に過ぎ、
長谷川第2高射隊長の方歳三唱によ
り賀詞交歓会はお開きとなりました。
（佐々木俊也幹事 記）

**5 横須賀教育隊修業式における
横須賀水交會激励賞の授与**

2月17日（月）横須賀教育隊第3
60期練習員課程修業式において、
成績優秀者1名に対し、今年度3回
目となる賞状及び記念品を土井会長
から贈呈しました。

横須賀水交會は、平成25年度重点
活動の一つである現役隊員激励施策
として、新たに教育隊における表彰
を企画、これまで夏の修業式におい
て2回実施しました。今回は、年度
最後となる表彰を実施したものであ
ります。

第360期練習員課程は、夏の期

間に全国で採用された122名が、
平成25年10月1日自衛官候補生と
して入隊、横須賀教育隊での厳しい
訓練等を無事乗り越え、2月17日晴
れの修業式となったものです。



当日は、2週に渡る大雪の影響に
より交通機関が混乱する中、全国か
ら多数の家族と部内外来賓出席のも
と、土井会長による表彰が整齊と行
われました。

今回、以下の方が表彰されました。
第360期練習員課程

永井 翔 二士

また、今年度横須賀水交會の活動
は、平成26年度以降、水交會全体の
事業として他教育隊でも実施するこ
とが決定され、教育隊が所在する各

支部水交會が、今後準備を進めるこ
ととなります。

今回、表彰された永井二士以下1
22名の修業生が、部隊において更
なる研鑽を積まれ、海の防人として
大きく成長されることを横須賀水交
會一同祈念しております。

（清水利広幹事 記）

【トピックス】

1 吉田雄人横須賀市長と懇談

平成25年11月28日（木）横須賀水
交會土井克彦会長は、横須賀市役所



を訪れ、吉田雄人市長と懇談をしました。市長はかねてから、車座ランチと称し、様々な方々、グループなどと懇談を行い市民との交流を図られておられ、この度、横須賀水交會との懇談となりました。艦艇乗組員の長期間の行動時の家族に対する支援、馬門山海軍墓地の維持整備についてなどを、今後の課題として、相互に協力していくことが話し合われました。

2 平成25年度第2回幹事会

平成25年12月11日(水)、横須賀地方総監部厚生センターにおいて平成25年度第2回幹事会を、引き続き、よこすか平安閣において懇親会を行いました。

幹事会は、会長、顧問以下約50名が参加しました。内容は、今年度下半期に実施された活動、馬門山海軍墓地修復工事、第27回ゴルフコンペ、横須賀教育隊修業式における激励賞授与等に関して、担当幹事から成果、所見について説明があり、参加者から今後の活動も視野に活発かつ熱を帯びた意見が交換されました。なお、教育隊に対する激励賞につ

いては、26年度から各教育隊において各水交會支部が実施することで、水交會事業として決定されました。



今後の事業について、現役隊員の留守家族への支援、馬門山海軍墓地保存会(仮)の検討、海曹出身OBの入会促進などを重視事項として検討を進めることが決定されました。

懇親会では、会長挨拶の後、来賓として、横須賀市副市長、小泉衆議院議員、市議会議員、武居横須賀地方総監に挨拶をいただきました。松崎顧問の発声により杯を挙げ、忘年会を兼ねた会は大いに盛り上がりま



した。中尾幹事長の中締め乾杯をもって懇親会を終了しました。

3 靖国神社等月例参拝

横須賀水交會は水交會本部が企画し実施している「靖国神社」、「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」及び「防衛省殉職自衛隊員慰霊碑」の月例参拝に、年2回、会長、役員及び有志が参加しています。本部の月例参拝は毎月第3木曜日(4月と10月の例大祭を除く)に実施されており、個人申し込みにより誰でも参加できますが、横須賀水交會では一般会員及び会員以外の方も参加しやすいように、年2

回、「横須賀水交會」として参拝者を取りまとめ参加しております。本年も2月20日(木)に土井会長、中尾幹事長、他顧問ほか役員をはじめ、役員による同伴あるいは個人申し込みといった形で多くの方が参加されました。

当日は週刊天気予報によると「雪」ということだったので、当初は計画通り参拝できるか危ぶまれましたが、参加者の心がけの良さからか、やや寒かったとはいえ天候に恵まれ、計画通りに実施することができました。





月例参拝には、横須賀水交會以外の参加者として兵学校68期から77期までの方々、甲飛會、予科練、電子會及び幹候各クラスの代表等が参加された結果、今回は60名という大人数で実施されました。

参拝に先立ち、水交會本部藤田理事長の挨拶、慰霊顕彰援護委員會の高橋委員による参加者紹介の後、靖国神社の徳川泰久宮司からご挨拶を頂きました。宮司からは2週続けての大雪で境内の桜、梅、榊といった樹木が相当数被害を受けたという状況や、水交會の参拝を大いに歓迎する旨のお話を頂きました。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑で戦没者の御霊に献花した後、防衛省内に移動し



靖国神社参拝後は引き続き千鳥ヶ淵戦没者墓苑に移動しました。献花の前に千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕會の古賀様から奉仕會の活動状況についての説明を受けました。

説明の中では、最近遺骨引き取り行事が2件あったが、内1回は千鳥ヶ淵で実施できたが、もう1回については寒かったので厚労省において実施されたことや、練習艦隊の墓苑参拝及び洋上慰霊祭について及び各種団体の墓苑参拝状況等に関するお話がありました。

直会は「靖国神社と東京裁判」と題された信兼副会長の寄稿文を長谷川幹事が披露した後、土井会長の挨拶及び乾杯の音頭で始まりました。

会場では横須賀水交會の直会の他に、幹候10期及び16期の皆さんのクラス会等も行われており、人の輪が大きく広がり水交會名物のなべ祭り



「殉職自衛隊員慰霊碑」の前で殉職された方々の御霊を安かれと祈った後、恒例行事としている参拝後の直会を実施しました。場所は例年通り原宿の東郷神社境内「東郷記念館」にある水交會本部です。

でおおいに盛り上がりました。

今回の月例参拝は、7月17日(木)です。特に「まだ一度も参加したことが無い。」という方はお誘い合わせの上、是非ご参加ください。

参拝に都合がつかない方は、直会だけの参加もおおいに歓迎いたしますので、遠慮なくお申し出ください。

参加申し込みは、横須賀水交會のホームページにある連絡先から申し込みができるのが便利ですが、ホームページが閲覧できる環境にない方は、最寄りの役員あるいはホームページを閲覧できる会員の方に依頼して参加の意思を伝えていただければ、どなたでも参加できますので奮ってのご参加をお待ちしております。

4 平成25年度第3回幹事会

3月15日(土)、横須賀地方総監部会議室において平成25年度第3回幹事会を行いました。

幹事會は、会長、顧問以下約40名が参加しました。内容は、26年1月以降に実施された活動報告、総会までの新年度行事予定、総会での議案(25年度活動報告、26年度活動計画等)等について、担当常務幹事から

成果、所見について説明があり、参
会者から今後の活動も視野に活発か
つ熱を帯びた意見が交換されました。

休憩を
挟み、今

回の大き

な議題で

ある緊急

登庁支援

に関して

横須賀水

交會の支

援に關す

る説明が

行われま

した。ま

た、武居

横須賀地

方総監か

ら緊急登庁等における家族支援につ

いての部隊の検討状況の説明をいた

だき、今後の検討に大いに参考とな

りました。

幹事会に引き続き、魚藍亭におい

て懇親会を行いました。懇親会は濱

田新常務幹事の司会で始まり、会長

挨拶の後、来賓として武居横総監に

挨拶をいただきました。



松崎顧問の発声により杯を挙げ、
以後いつものごとく大いに盛り上が
りました。長崎顧問の中締め乾杯
をもって懇親会を終了しました。

訃報

昨年11月以降、次の会員が逝去さ
れました。謹んでお悔やみ申し上げ
ます。(敬称略)

船木力(海兵73) 11月4日

手塚俊雄(幹候13) 11月25日

(本多一雄事務局長記)

新(編)入会員(25年10月~26年2月)

次の方々横須賀水交會に新たに
入会(編入)されました。

(敬称略)

桂眞彦(幹候33) 加古龍三(幹候25)

深見友也(有志) 田中武(有志) 脇

道真(有志) 雑賀大助(舞曹候04)

佐藤正人(横練186) 山田信明(幹候

33) 長須賀明彦(幹候35) 吉野信

二(有志) 神納祐一郎(有志) 高橋

均(幹候31) 加藤勉(横教) 大野慶

二(幹候33) 伊藤健太(有志) 岩附

辰夫(有志) 小池正久(有志) 大津都

世美(有志) 中川淳(有志) 大沼高

広(有志) 中山昭宏(有志) 菅波真

由美(有志) 中沢昌之(有志) 曾我英

一(有志) 伴木希己江(遺族) 高橋

進(横教186) 野村優子(有志) 野崎

潔(遺族) 大西さおり(有志) 塩田

貞吉(有志) 菅原完(海兵77) 鈴木

智行(有志) 今村仁(幹候32) 菊池

之広(有志) 川村隆一朗(有志) 濱

田暢喜(幹候31) 篠原鉄男(部内)

小松弘明(幹候31) 安田由紀子(有

志) 鈴木眞一郎(幹候33) 高梨多恵

子(有志) 小原望(幹候21) 檜森晃治

(生徒21)

(高橋陽一幹事記)

【編集後記】

今年は2月に連続して大雪が降る
など、荒れ模様の天候が続いていま
したが、3月中旬から、いっぺんに
暖かい良い気候となりました。その
ためか横須賀地区の観桜会も、美し
く開いた桜の下で行われました。



横須賀水交會もお招きを頂き、会
長を始めとして多くの会員が田戸台
での春のひと時を楽しませていた
きました。

毎年5月以降は水交會企画行事も
多くなつて参ります。皆様の積極
なご参加と論文等記事の投稿をお待
ちしています。

(編集担当 宮崎)